

「草津市多文化共生推進プラン」概要 やさしい日本語版

1 プランを作った理由

草津市に住む外国人は2020年3月31日で3,066人です。草津市では、2018年～2020年で外国人が

1.6倍増えています。

日本では、2019年4月1日に法律が変わり、新しく「特定技能」の在留資格が増えたので、これから草津市に住む外国人はもっと増えるでしょう。そのために、いろいろな人と協力をして国籍や民族の違う人が認め合って一緒に暮らすために「草津市多文化共生推進プラン」を作ることになりました。

このプランは2020年9月に国が出した「地域における多文化共生推進プランについて（改訂）」と2020年4月に滋賀県が出した「滋賀県多文化共生推進プラン（第2次改定版）」を参考に作りました。

プランの期間は2021年4月1日から2026年3月31日までです。新しいことやちがうことがわかったときはプランをなおします。

2 今の多文化共生

日本…2019年12月31日で外国人数は294万人で今までで1番多いです。国籍別では、ベトナムが42万人増えています。在留資格別では「永住者」が1番多く、次に「技能実習」、「留学」が増えています。

滋賀県…2019年12月31日で32,995人の外国人が住んでいて、滋賀県に住んでいる人の2.33%が外国人です。

草津市…草津市に住む外国人は2015年から増えています。

国籍別では、東南アジアから来る人が増えていて、特にベトナム国籍の人が2016年では87人でしたが、2020年には514人で増えています。

在留資格別では、「留学」と「永住者」が多いですが、「技能実習」、「技術・人文知識・国際業務」の資格者も増えています。

ぶんや 分野	げんじょう かいだい 現状と課題
こみゅにけーしょん コミュニケーション	<p>【現状】草津市で生活する外国人の多くは日本に住んでいる期間が短いです。だから言葉や文化が違うことで生活ルールやマナーについての思い違いが来ています。</p> <p>【課題】日本語教室が足りません。また、日本語を教えることができるボランティアを作っておくことが必要です。</p>
せいかつ 生活	<p>【現状】保健・福祉サービスなどの生活についての情報が自分の国のこととは違うため、わかりにくい。また、地震や台風の経験が少ないので、防災の備えや知識が足りません。</p> <p>【課題】外国人が安心できる生活やサービスについての情報提供が必要。提供が必要。</p>
きょういく 教育	<p>【現状】外国人の子ども達は日本語の力や文化のちがいで授業がわからないことが多い。</p> <p>【課題】外国人の子ども達へ日本語や学校の勉強のお手伝いすることが必要。</p>
しゅうろう 就労	<p>【現状】多言語での仕事についての就労の情報発信や外国人向けの仕事につくことの情報提供が足りません。</p> <p>【課題】多言語とやさしい日本語で仕事につくための情報提供が必要。</p>
ちいき 地域	<p>【現状】留学生が持っている、高い知識や能力を地域に活かしていません。また、言葉や文化が違うことで、トラブルが起きることがあります。</p> <p>【課題】多文化共生の地域づくりを進めるために一緒に地域づくりをしてくれる人が必要。</p>

3 多文化共生を進めるための考え方

みんなの^{ちが}違いを^{みと}認めて ^{ささ}支えあう

みんな ^{しあわ}幸せを感じる ^{かん}多文化共生の ^{まち}まち ^{くさつ}草津

Respect differences and support each other

Kusatsu, a multicultural city where you can live happily

4 多文化共生で大事なこと

① 情報を伝える

外国人の全部の国のことばで情報を伝えるのは難しいです。そのため、「やさしい日本語」を広くみんなに伝え、たくさん使います。

② 生活を助ける

外国人が増えているので、草津市で安心して生活できるように助けます。

③ 多文化共生の地域づくり

日本人と外国人が共に暮らしていくために、お互いをみとめあう地域社会を作ります。

5 多文化共生の進め方

○それぞれの役割

(草津市に住んでいる人、まちづくり協議会・町内会、市民公益活動団体、草津市国際交流協会

教育機関、医療・保健・福祉関係機関、会社、大学、市役所)

○このプランは草津市役所 まちづくり協働課が色々なところと助け合いながら進めます。

